

## グループ学習のまとめ

### テーマ 台湾の近現代史と経済発展 なぜ、台湾は奇跡的な経済発展を遂げたのか

コース・専攻：国際交流・協力

グループ名 台湾イレブン

メンバー：大和 一郎(リーダー)、谷口 清、太田 真由美、金子 菊子、宇都宮 亮子、三輪 富喜子  
玉浦 智、今田 幸子、山中 良、片山 知栄子

#### 1. テーマ選定理由

台湾は、日本の九州より一回り小さい島国ですが、経済は 21 世紀に入り、奇跡的な発展を遂げ、現在、GDP 世界 22 位、一人当たりの GNP は、日本を抜いた。この経済発展を台湾の近現代史を紐解きながら、その要因を考察した。

#### 2. 学習内容

台湾経済の現状、台湾人とはどんな民族か、台湾の統治者の変遷及び 1900 年代の中国大陸事情について、メンバーが共通認識を持てるように勉強会を行った。各自が 1 つ関心のあるテーマを選び、学習内容を纏めた。報告書の構成は、まず、1600 年からの台湾史を含む近現代史について、8 つの時期に分けて、経済の発展に関わる要因に絞り、抽出し纏めた。直近の台湾経済発展に寄与した半導体産業の成長過程と特徴については詳しく調べた。

また、1900 年からの日本統治時代や第二次世界大戦後に経済発展に貢献した人物と事業を次のとおり纏めた。

- (1) 長谷川 謹介と台湾鉄道事業 (2) 新渡戸 稲造の台湾製糖業
- (3) 八田 與市と灌漑水利 (4) 蔣経国及び李登輝の台湾経済施策
- (5) オードリ・タンと台湾 IT 産業 (6) 蔡英文の新時代政策

なお、台湾新交通システム MRT 及び LRT は台湾新発見とした。

#### 3. 経済発展まとめ

経済発展に原動力は、社会資本の増加、技術の進歩及び労働人口の増加であるので、それらの観点で抽出した要因を整理した。まず、日本統治時代の鉄道や港湾等の社会インフラ整備により、台湾経済の基盤が構築された。戦後、蔣経国が行った高度社会インフラ整備の十大建設が経済基盤を強固なものにした。日本統治時代は、サトウキビやお米の農業生産効率の改善であった。戦後は、アメリカの経済援助の中に人材育成を視野に入れた支援があり、米国への多数留学した人材が、台湾に戻りテクノクラート(技術官僚)として活躍した。彼らが、工業技術研究院を立ち上げ、官民一体となって、技術革新を行い、ハイテク産業振興、半導体産業を成長させた。そして、台湾の人口の増加は、日本統治時代 600 万人であったが、現在 2300 万人に達した。

#### 4. フィールドワーク

フィールドワークは、台湾の台北から高雄を新幹線で縦断往復し、高雄市を基地として、4 泊 5 日で台北、新竹、台南、高雄の施設を視察した。台湾原住民博物館、新竹サイエンスパーク、台南にあるオランダ要塞安平古堡 ゼーランディア城、赤嵌楼、高雄にある台湾糖業博物館、台湾鉄道博物館に行き、史実を確認できた。台風の影響を受け、歴史博物館に行けなかったが、1 日平均 10km 歩行し、よく歩き、よく学んだ。日射病や熱中症にかかることもなく、参加者全員無事に帰国できた。感謝。



